100
SINCE1925

新しい常識を創造する

Searching for a New Balance

私たちの100年、挑戦の軌跡



1925 年、「寺岡式敏感自動秤」が誕生。既存の常識を覆し、新たな価値を創造する TERAOKA の原点となりました。

100周年に寄せて

お客様の要望を待つのではなく、現場で本質を見抜き、まだ形のない課題を具体的な製品やサービスへと結実させる――こうして初めてニーズは喚起され、市場は動き出します。この考えを、私は「ニーズは企業がつくるモノ」と表現し、社員と共に育んできました。

当社の CI「新しい常識を創造する」は、英語では Searching for a New Balance と表現します。New Balance とは「新しい均衡」のこと。つまり、イノベーションによって市場の常識を破り、新たな均衡を築いた後も、そこに安住することなく、さらにその次の均衡を求めて探し続ける――という継続的な挑戦を意味します。

1925 年の創業以来、当社は日本初・世界初となる数々の製品を生み出し、お客様へ“わくわく”を届けてまいりました。それは常に既存の常識を問い直し、新たな常識を築く挑戦でもありました。

これからの100年も、この精神を胸に、新しい市場を切り拓き、お客様とともに成長を続けます。現場から生まれる発想力と実行力で、社会に価値を生み出し、次の常識を創造してまいります。

代表取締役会長



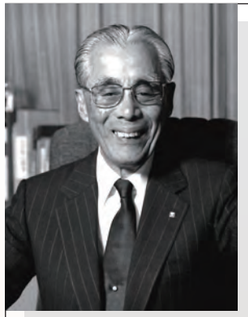
100年をひもとく――TERAOKAの歩み

写真と解説で TERAOKA の歴史をわかりやすくまとめました。短時間で読めるダイジェスト版ヒストリーです。



寺岡豊治（1878–1955）

「雲の上には太陽がある」を信条とし、どんな逆境にも希望を失わず挑戦し続けた創業者。若くして英語や機械工学を学び、米国留学で得た知見をもとに数多くの発明に挑むも、計算機、自転車チェーンなど事業は幾度も失敗した。しかし信念を曲げず模索を重ね、1925年、47歳にして世界初の多回転式自動秤「寺岡式敏感自動秤」を完成し、現在の寺岡精工の礎を築いた。直販体制と日掛販売という独自の方法で全国に広め、「はかりは寺岡」の名を確立。質素で温かく、人を励ます言葉を惜しまぬ人柄で社員から慕われた。晩年も 73 歳でレジスター開発を手がけるなど、生涯を通じ前向きに未来を切り拓いた。



寺岡武治（1915–1996）

創業者・豊治の長男。行動力と技術探究心に富み、「感謝 やろう 出来る 他で造れぬものをつくる」をモットーに、失敗を恐れず優れた製品を生み出すことに情熱を注いだ。戦時中はマイクロメーターの生産を指揮し、その需要が会社を支えた。敗戦後、社員が動揺する中、「これは歴史の一頁である」と冷静に語り希望を示した。やがて、温度誤差を補正する「マスターばね」を開発し、計量精度の向上に大きく貢献。また、自動巻きカメラ、自動ドア、デジタル秤、バーコードプリンターなどを次々と実用化。世界を視野に入れ、1971年に海外輸出を開始するなど、技術革新と事業の多角化で成長を牽引した。誰よりも仕事を愛し、真剣に働く人を心から尊敬した。

1925



寺岡式敏感自動秤の発売

バネを使った世界初の多回転式自動秤「寺岡式敏感自動秤」を開発。日・英・米・仏の特許を取得し、日掛（月賦）払いを日本で初めて導入。社員自ら販売に赴く直販体制で、全国への普及を実現した。

1951



日本初の機械式料金秤発売

特許取得の温度不感バネを「A マスター」としてブランド化。このバネを搭載した日本初の機械式料金秤「ネオン秤」を発売。ネオン管を内蔵し、明るく見やすい表示を実現した。

1954



日本初の自動巻きカメラ発売

日本初のフィルム自動巻き上げ 35 ㎜カメラ「オートテラ」を発売。連続速写機能と明解な操作性が評価され、警視庁や南極観測隊に採用された。

1955



本社を久が原へ移転

寺岡精工所本社を大田区矢口から、現在地である大田区久が原へ移転。新たな拠点で事業拡大の基盤を築いた。

1959



柳宗理との出会いと「パール」

世界的工業デザイナー柳宗理とのコラボレーションで、精密な機能と洗練されたデザインが融合した下皿秤「パール」を開発。1962 年には計量業界で初のグッドデザイン賞を受賞した。武治と柳は、互いの専門分野でぶつかりながらも馬が合い、数々のヒット製品を生み出した。

1960



日本初の純電気式自動ドア完成

主流だった油圧式や空気圧式ではない、純電気式の自動ドアを日本で初めて開発。高価で限られた施設にしかなかった自動ドアが、全国へと急速に普及するきっかけとなった。

1965



世界初のデジタル表示電子料金秤開発

機械式秤から電子式秤への移行の第一歩となる、世界初のデジタル表示「電子料金秤」を開発。東京国際見本市に出品し、大きな反響を呼んだ。

1973

「DIGI」誕生

「空間をデザインするはかり」をキャッチコピーに、コンパクトで耐久性の高い電子料金秤「DIGI」を発売。日本でヒットし、海外輸出でも大成功。TERAOKAの海外ブランド名「DIGI」の由来となった。

1978

ロードセル採用電子料金秤

「DIGI Mark II」を発売。国内で初めてロードセルを採用し、演算部にマイコンを搭載した画期的な電子料金秤として注目を集めた。

1980



POS 普及の扉を開く

世界初のサーマル印字方式バーコードプリンター「BP-10」を発売。店内でバーコードを付けられるようになり、POS化が一気に進展。通商産業省（現・経済産業省）の POS店頭実験に参加し、JANコード規格の実用化にも貢献した。

1981



印字の常識を変えた計量値付機発売

世界初のサーマル印字方式を採用した計量値付機「DPS-1000」を発売。ワープロ機能により、商品名スタンプをそのつど入れ替える手間を解消した画期的な製品。

1981



世界初の自動計量包装値付機発売

世界で初めて、計量・包装・値付の作業を１台に集約した「AWW-2000」を発売。現在も世界各地のスーパーマーケットで使われる TERAOKA 包装機の原点となった。

1983



産業分野への進出

デジタルカウンティングスケール「DC-1000」の開発で産業分野へ進出。1980 年代には、世界初のロードセル式計数秤 1/250,000 の分解能を実現した「DC-3000」が登場し、高精度な計数秤として評価を得た。汎用性に優れた「DIGI コンポ」は多様な現場で活用され、ヒット製品となった。現在では産業分野は TERAOKA の主要事業の一つとなっている。

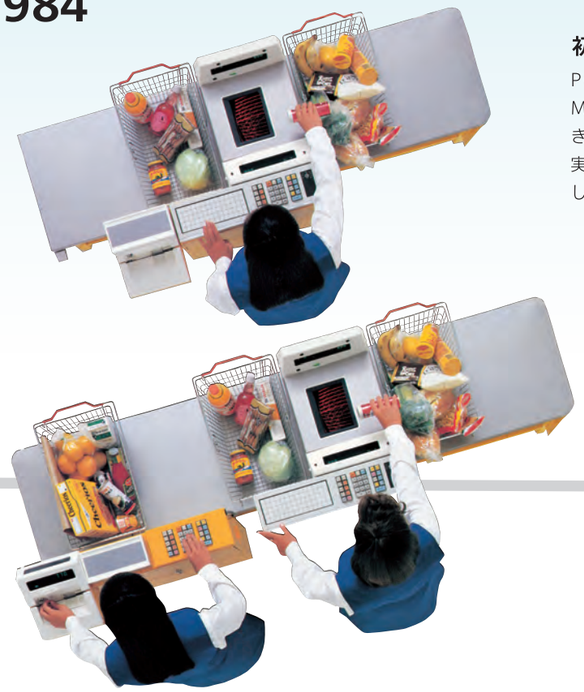
1982



サーマルプリンター搭載電子料金秤発売

電子料金秤にサーマル印字方式を採用した「SM-40」を発売。対面販売でのバーコード印字を可能にし、POSの浸透を加速させた。

1984



初の POS システム製品を発売

POSシステムへの取り組み第１号となる「SUPER-M3000」を発売。チェッカーが正面を向いたまま操作できる「ストレート対面カウンター」方式を採用し、販売実績に基づき翌日の売上を予測するソフトウェアを搭載した。

1984



フードインダストリー事業に参入

食品工場向けの高速計量値付機「HI-6000」により、フードインダストリー事業に本格参入。デイリーメーカーやプロセスセンターをターゲットに、ラベラーや包装機などの提供を通じて事業を拡大した。



寺岡和治（1946－）

2015年より現職。創業者･豊治の孫であり、2代社長･武治の長男。入社以来、営業･海外事業をはじめ幅広い分野で手腕を発揮し、1985年に社長就任。4カ国に製造拠点を設立し、各地域で製品開発と販売を行う「グローカル」を推進してきた。現場での観察と対話を大切にし、顧客自身も気づかない課題を見抜いて形にする姿勢は社内に深く根付いている。会長就任後は Chief Technology Architect として、次代の成長につながるイノベーションの機会を探し、技術の未来を見据えた取り組みに力を注いでいる。2023 年からは「Grow with Green」をテーマに、持続可能な社会と企業の成長を両立させる道を拓いている。

1986



上段：DIGI Europe（英国）、Shanghai Teraoka Electronic（中国）、
下段：DIGI Singapore（シンガポール）、デジアイズ（岩手）

初の海外生産拠点を設立

シンガポールに初の海外生産拠点を設立。後に英国、中国にも拠点を開き、日本を含む 4 拠点体制を構築。開発・製造・マーケティングを現地で行う「グローバル･ローカリゼーション」を展開している。

2001



広域コールセンターを開設

首都圏でコールセンターを開設し、順次全国へ拡大。現場経験豊富なサービス担当者を配置し、コールを受けると最寄りのフィールドサービスが迅速に訪問できる体制を整えた。

1999



電子棚札（ESL）を発売

POS レジと連動し、売価を瞬時に値札へ反映することで、レジ金額との完全一致を実現。店舗業務の効率化と正確性の向上に貢献した。

2000



クラウド展開への第一歩

流通小売業向け ASP サービスの取り組みを開始。最新の商品マスターを反映しラベルプリンターで表示ラベルを作成する、業界初の ASP サービス「@LABEL」は、TERAOKA のクラウドサービスの礎となった。

2003



セルフレジを日本で初めて実用化

セルフスキャニングPOSシステムを日本で初めて実用化。当時、国内ではほとんど認知されていなかったセルフスキャン方式を、継続的な検証と改良により日本市場に適合させた。

2006



ホスピタリティー事業に参入

流通小売分野で培ったノウハウを生かし、飲食業界向け事業を開始。店舗運営をトータルに支える斬新なビジネスモデルで、先行する他社との差別化を図った。

2010





チェックアウト レボリューション

「スピードこそサービス」を合言葉に、世界初、登録装置と複数の会計装置の分離を実用化。当初は市場浸透に苦戦したが、スキャンを店員、会計を買い物客が行う方式の効率性が評価され、広く受け入れられた。

2011



ライナーレスラベルソリューション

日本初、台紙を使わないライナーレスラベルを搭載した計量値付機を発売。ランニングコストの削減と廃棄物抑制を実現。環境意識の高まりに先駆けて取り組んだ。

2017



ペットボトル回収機「ボトルスカッシュ」登場

ペットボトル減容回収機「ボトルスカッシュ DRV-100」を開発。環境省合同庁舎への設置や、大手コンビニエンスストアへの導入を通じて、消費者・小売店・リサイクラーが連携する資源循環の仕組みをいち早く実現した。

2022



量り売りの再発明

無駄を出さない買い物スタイルとして注目される量り売りに、世界初の減算式計量器（OIML 型式承認取得）を導入。伝統的な売り方を、今の時代に合ったサステナブルなスタイルへと進化させた。



2023

Grow with Green を掲げる

「Good for Environment」「Good for People」「Good for Business」の 3 つの視点で、環境や社会課題の解決と企業成長の両立を目指すアプローチ「Grow with Green」を打ち出す。

2024



一体型 MAP トレーシーラー発売

省スペース設計でスーパーマーケットのバックヤードにも設置できる世界初の自動計量 MAP 包装値付機を発表。食品の消費期限を延ばし、フードロス削減に貢献。

数字で見る成長

創業以来 100 年、TERAOKA グループは着実な成長を続けてきました。2019 年には連結売上 1,000 億円を突破し、2021 年以降は対前年比 110％を上回る高い成長水準を維持しています。また、グループ従業員数も 4,000 名に迫り、事業基盤の強化も着実に進んでいます。TERAOKA グループは、さらなる飛躍に向けて新たなステージへと歩みを進めています。

グループ連結



グローバルに展開するTERAOKAグループ

国内外への製品供給を担うグループ最大の製造拠点、岩手県奥州市のデジアイズ

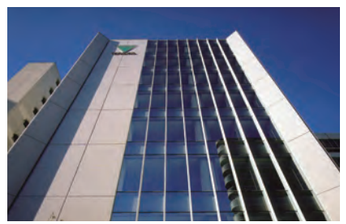
TERAOKA グループは、国内に10 社の関連会社と約 130 カ所の販売やサービスの拠点を構え、全国各地のお客様をきめ細かくサポートしています。

一方、1970 年代からは本格的に海外市場への進出を開始し、日本、シンガポール、英国、中国の４拠点を核に、製品開発から製造、マーケティングまでを一貫して行う体制を確立。この「グローバル・ローカリゼーション」により、各国や地域のニーズや商習慣に適した製品・サービスを迅速に提供できる仕組みを構築しています。

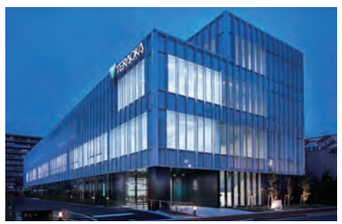
現在では、海外に15 社の関連会社を擁し、世界約150カ国に広がる販売・サービス網を展開。グローバルなネットワークで、世界中のお客様に価値を届けています。



東京ショールーム



寺岡精工 本社



TERAOKA EXPERIENCE SHOWROOM

TERAOKA Group

- 寺岡精工
- 寺岡北海道
- 寺岡システム
- **テラオカ**
- **テラオカ**関西
- 九州**テラオカ**
- 寺岡外食ソリューションズ
- デジアイズ
- デジジャパン
- 協立商会
- 中部**テラオカ**

- **DIGI** SINGAPORE
- **PT. TROPICAL** ELECTRONIC
- **DIGI** EUROPE
- **SHANGHAI TERAOKA** ELECTRONIC
- **DIGI** CANADA
- **DIGI** DEUTSCHLAND
- **DIGI** FRANCE
- **DIGI** NEDERLAND
- **DIGI** BELGIUM
- **DIGI** KOREA
- **DIGI** SYSTEM GURGAON
- **DIGI** ITALIA
- **DIGI** AMERICA
- **DIGI** IMSISPAL
- **DIGI** TURKEY

Grow with Green

「Grow with Green」は、TERAOKA が掲げる持続可能な社会へのアプローチです。その中心となるのは、環境・人・ビジネスを軸に据えた3つの視点です。

脱炭素、ゼロ･ウェイスト、フードロス削減、脱プラスチックの環境課題に対し、SXソリューションで解決を図る「**Good for Environment**」

作業効率を改善し、働く人の負荷を減らすDXソリューションが実現する「**Good for People**」

さらに、これらの取り組みが企業の成長と利益創出につながってゆく「**Good for Business**」

TERAOKA は、「環境や社会課題の解決は、社会への貢献であると同時に企業成長の推進力になる」と掲げ、持続可能な未来の構築に向けて歩みを進めています。



時代をこえて、
支持される会社へ

寺岡精工は、2025 年に創業 100 周年を迎えました。これまで私たちが歩みを進められたのは、何よりもお客様からの変わらぬご支持と信頼のおかげです。

私たちのビジョンは「新しい常識を創造する」ことです。その前提にあるのは“お客様の支持”です。お客様の困りごとに真摯に向き合い、わくわくと喜んでいただける革新的な製品やソリューションを生み出す。そして、その価値を的確にお伝えし、お届けする。この積み重ねこそが、時代をこえて選ばれる企業をつくると信じています。

おかげさまで、2024 年の連結売上は 1,700 億円に迫る過去最高を更新しました。この 10 年間での成長は特に顕著で、売上規模は力強く拡大し、収益性も安定しています。

100 周年は大きな節目ですが、新たな成長の山を描くための通過点にすぎません。これからもお客様に支持され続ける企業であるために、そして社会に新たな価値を提供し続けるために、寺岡精工は挑戦をやめません。次の 100 年も、お客様とともに歩み続けます。

代表取締役社長



発行　株式会社寺岡精工
〒146-8580 東京都大田区久が原 5-13-12
編集・デザイン　株式会社寺岡精工
グローバルマーケティングコミュニケーションズ
www.teraokaseiko.com

本冊子の掲載内容は当社の調査結果に基づいています

911900200
B20260918